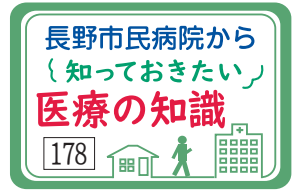




草間 由紀子



いるかという点、主に「病理診断」と「病理解剖」という仕事を行っています。

### 標本を顕微鏡で観察

病理医の仕事の大半

を占めるのが、病理診断です。病理診断には、

①組織診断 ②細胞診断」と、組織診断のうち特殊な「③術中迅速診断」があります。

①組織診断は、患者さんの体から採取した組織を顕微鏡で観察して、病気を診断するものです。採取した組織は特殊な加工をして薄くそぎ、ガラス板に乗せて染色を行い、観察に適した標本にします。

病理診断科部長 専門は病理

## 病理医



## 組織や細胞を調べる専門家

それを顕微鏡で詳しく見ること、組織内の細胞の顔つきや形、構築や配列の乱れなどから、がんなどの病気が分かるのです。

②細胞診断は、患者さんの体から採取した細胞から病気の診断を

します。細胞はガラス板に塗り、染色して観

察します。細胞の顔つきなどから、悪いものか良いものかを判断します。この細胞診断は、「細胞検査士」という資格を持つ臨床検査技師と共同で診断を行っています。

③術中迅速診断は、

主に手術中に行う少し特殊な組織診断です。通常の組織診断は標本の作製と診断に数日かかる週間かかりますが、術中迅速診断は組織を凍結させて処理し、標本の作製と診断を速く行います。診断までにかかる時間は数十分程度で、この診断はその後の手術方針の決定に役立っています。

### 臨床医を支える裏方

病理医にとって、病理解剖も重要な仕事です。これは病院で亡くなった患者さんの遺体を解剖し、医学的に詳細な検討を行うことで、死因や病態を解明した

り、生前に行われた治療の効果を評価したりするものです。

近年では「がんゲノム医療」が行われるようになり、病理医はこの分野にも関わっています。

こうした病理医の仕事は、全て臨床医の依頼を受けて行われます。そしてその診断結果は臨床医に報告され、患者さんの治療方針の決定や、医療の質の向上に寄与しています。

病理医は医療現場の裏方といえます。患者さんと対面する機会が少ないため、その存在を知らない人が多いと思いますが、こうした医師がいることも知ってもらえればうれしいです。